

ハイブリッド通信

特別号

発行
2017.03.01

最大震度7の強い揺れと国内観測史上最大の津波を伴い、東北・関東地方を中心とする広い範囲に甚大な被害をもたらした東日本大震災から、早いもので6年が経過します。昨年においては、熊本で大地震が発生し、「日本はいつでも地震が起きてても不思議ではない」ということを目の当たりにしてしまいました。今住んでいる我が家も大きな地震が来たら大丈夫なのかしら？」と

不安を感じた方も多いのではないのでしょうか。ハイブリッドホームでも、年に十数件の耐震リフォームのご依頼があり、一部屋補強から家全体補強までご要望に合わせて様々な耐震方法をご提案しております。また、家のメンテナンス時期や、家族構成・ライフスタイルの変化に伴うリフォームに併せて耐震補強を計画することを、経済的にもメリットがあるのでお勧めしています。

3・11東日本大震災から6年 「住まいの安心・安全」を考える。



築45年の木造2階建てR様邸。住みながらの工事希望や家財・荷物の整理も難しいことから一部屋補強で少しでも耐震性能がアップするよう「壁柱」にて、一階の寝室を



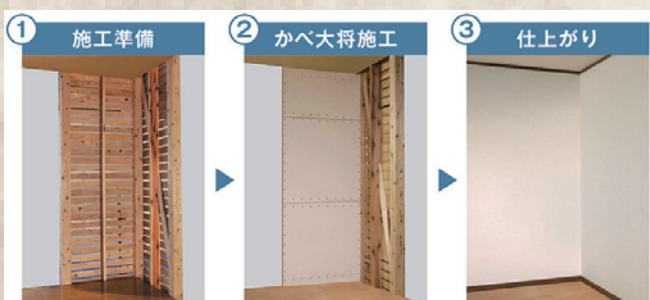
「一部屋補強」で震度6に耐えられる壁柱

補強しました。社団法人大阪府木材連合会と京都大学防災研究所が共同開発した「壁柱」NHKなどでも取り上げられ、今話題の耐震補強です。この「壁柱」は、間伐材の角材を連結させた壁で、40cm変形しても元に戻る優れた変形性能を持ちます。「固定はするが、完全密着させない」構造のため、柳に風の原理で力を逃す吸震工法です。一部屋補強で、繰り返される震度6にも耐えられる魅力的な耐震補強です。

「耐震リモデル」なら省施工&省コストのかべ大将



一般的な耐震リフォームなら、耐力壁を施工するために、天井や床をはがすなど大工事をする必要がありますが、大費用もかかりますが、大建工業の耐震かべ「かべ大将」なら、3ステップで施工でき、コストは従来の約30%削減できます。



天井・床はそのままに、かべ大将を施工して、クロスを張って出来上がり。
※現場の状況によっては床・天井などの付帯工事を伴う場合もあります。

【誰でもできる我が家の耐震診断の10項目】

- ☐ 建てたのは1981年6月以前である
- ☐ いままで大きな災害に見舞われたことがある
- ☐ 増築をしている
- ☐ 傷んでいるところがある
- ☐ 建物の平面形状が凸凹してる
- ☐ 大きな吹き抜けがある
- ☐ 1階と2階の壁面の位置があまり重なっていない
- ☐ 1階の外壁に大きな開口が沢山ある
- ☐ 屋根は瓦ぶきである
- ☐ 鉄筋コンクリートの布基礎・ベタ基礎ではない

該当項目が3つ以上の場合、一度専門家に診てもらいましょう！

